

## ロハスと言う言葉が流行っていますね

LOHAS=LIFESTYLES OF HEALTH AND SUSTAINABILITY の頭文字をとった略語で、健康と環境、持続可能性な社会生活を心がける生活スタイル「LOHAS」(ローハス/ロハス) のことです。

ロハスは1990年代後半にアメリカの中西部、コロラド州ボルダー周辺で生まれた新しいビジネス・コンセプトです。ボルダー周辺には、地球環境問題や農薬汚染の問題が当時発生し皆が危機意識を持ち、スローライフな生活様式や持続可能な生活環境を営んでいく行動した人達がビジネスを通じて新しいパラダイムの創造を志したのです。

現代社会は金融取引等の事でわかる様に日本人もグローバル化の中で翻弄されています。

普通一般人はグローバル化の事は意識していませんが、実質的に、我々の生命保険の掛け金も機関投資家を通じてグローバル化した市場で取引されているのです。

ところでロハスと言う考えは、これからの日本人に合う考えですよ。日本人は2000年の歴史が有りそして農耕民族として生きてきて今があるのです。何かロハスと言う考えと共通したところが有りますよね。

昨今のヨーロッパの人々は、環境問題に世界中で一番積極的に取り組んでいます。ガソリン等の化石エネルギーを使う事に制限を設けたり(数値目標がはっきり出され、検証もされる)ゴミの再資源化を積極的に進めたりしています。ロハス的な発想だと私は思います。

アメリカで最初に発想されたことであれ、どこの国で始められた発想であれ、よい事と思えば、誰よりもいち早く積極的に取り組んでいます。

日本人は不良債権処理の問題の時でも、アメリカとかヨーロッパで起こった事を例に出すしか脳が有りませんでした。そして空白の10年とか15年と言われました。なんで日本人は積極的なアイデンティティが無いのでしょうか。

CO2制限の京都議定書の問題でも、もっともっと積極的に国民に問いかけ、ヨーロッパの人々の様に積極的に環境問題に取り組まなかったら、子孫にどれ程のツケを齎すのかをはっきりさせなければならぬと思っています。中国とかインド等の開発途上国も日本人がヨーロッパの人に負けないうらい取り組んできたなら、日本人はもっと尊敬され、安部首相曰く、本当の美しい国になるのではと思います。

## 日本人は直にでも環境問題に取り組んで欲しい

私はダイビングが趣味ですが、新聞紙上でも取り上げられている環境破壊というものを体験してきました。それはこの三年間で海水の温度が物凄く上がっていることです。私はインストラクターにその根拠を教えてくださいました。

その現場は本州最南端の串本です。黒潮が流れる串本でも冬場の海は大変冷たいです。普通は2月の海水温は15度を下回ります。しかし今年はそのようではないのです。16.4度もあるのです。クマノミは普通海水温が15度を下回ると越冬できないのですが、本年は凄く元気に生き残っているのです。それが生態系の乱れの証拠になりますとインストラクターに教えて頂きました。

以下に二月の串本・白浜の海水温を明記します。

2004年 14.4度 (すみ崎第一ブイ)

2005年 15.6度 (浅地)

2006年 16.0度 (白浜・カスミの根)

2007年 16.4度 (すみ崎第四ブイ)

もし海水温の上昇が止まらなかったら、我々日本人はどれ程の幸せと富を失うかを想像したら怖くなります。

**ストップ温暖化を実行しようでは有りませんか。**

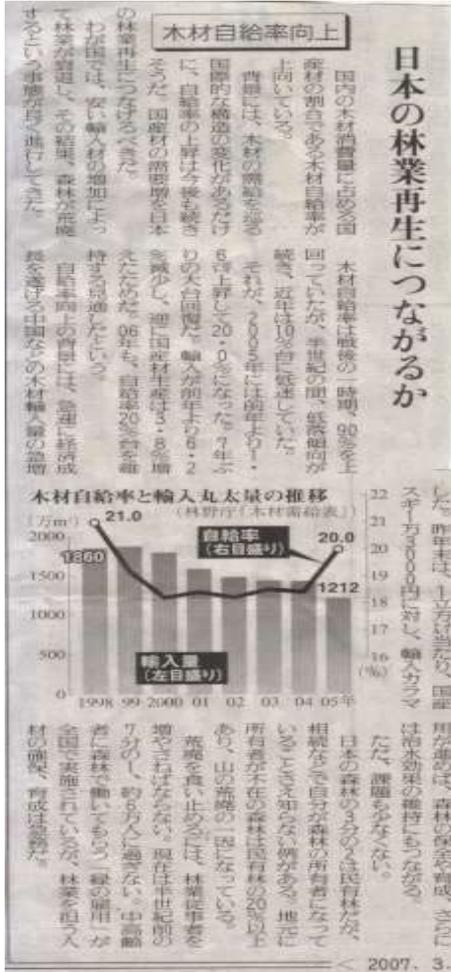
その為に建築士・工務店・材木業者はお施主様を交えて

如何に行動するのか考えていかねばならないと思います。(なお上記温度はダイブポイントによっても少しの誤差は生じるとインストラクターは仰っていましたが、これ以上海水温が上昇すると、環境破壊は想像出来ないとも言っていました。





# 本当に木材自給率がアップするのか



左の記事は読売新聞の3月5日の社説です。記事の内容は木材自給率が少し向上していると書いています

前ページのロシア材の記事から国内の木材の需給率がこれからも、ぐんぐん上がってくるのかと、言う質問があれば、答えは半分イエス、半分はノーと言うのが本当ではないかと思えます。その根拠は、建築の部材で言えば合板とか葉柄材・構造材は確実に外材の値上がりで国内材が見直される事になると思えますが、ただ現場の施工側の技術レベルから言えば、垂木・ドウブチが主な用途のロシア産赤松に慣れた大工さんは、杉・檜を使いこなせるか少し疑問を持ちます。又作業賃を値切られているし、良い技術を持っている

大工さんはかなり減っています。国内材の杉・檜の法が、お施主様側には良い材質である事は日本建築の2000年の歴史で証明されていますが、果たして国内材回帰が現実に行き渡れば、そして国内の森林が、良い状態に戻るかは、木材業界の力だけでなく、建築士の設計に織り込まれるとか、エンドユーザーの消費者が、多少値段が掛かっても是非国内材を使って欲しいとかの要望が強くなければ、現実には国産材回帰は、進まないでしょう。

又森林全体を見たとき、日本の山には板の幅が広く取れて値段が手ごろな材は本当に少ないの

です。例えば、神棚の様な用途は、割と広い板の幅の材が要求されます。仕上がり長さ1メートルで厚み25ミリ、幅360ミリが大体神棚の必要なサイズですが、国内材の檜では、値段が凄く高く付きます。そうなれば、値段がこなれて、しかも広い板の幅が取れる材は、アラスカ材のスプルースになると思えます(外材の価格競争力に負ける国産材)。

又日本の山は、特に北海道以南の山は杉・檜が主体の森林経営になっています。それは確かに戦後林野庁が、森林経営と歌って、天然の森林(ブナ・なら等)を次々に伐採し、杉・檜ばかりを植林したせいで、元々有った色んな樹種は事実上消え去りました。その事は一般人も山に行かれたら解りますが、杉・檜ばかりの山になっているのは、誰が見ても確かめられると思えます。そんな山で消費者が要求する商品は提供できません。

又日本の山には、もうひとつ弱みがあります。それはロシア・アメリカ・ヨーロッパ・インドネシア等の木材輸出国と比べて大変なハンデです。山自体が、急峻である為に例えば、本州に広葉樹を多く植林しても割りと枝下の短い材しか取れないのです。枝下の短い材しか取れない証は私の父親・祖父から聞いています。50年以上昔、奈良県からもナラ原木が供給されていたのですが、材質は良いのですが、枝下が短く長い材が取れないので販売に苦労したと言っていました。その枝下の短さは、世界の広葉樹と競争しても価格・材質面で、負けてしまいます。勝てるのは北海道の広葉樹だけですが、北海道の広葉樹資源も、消費者に多くの良質材を供給する資源量はもはや、有りません。まして北海道以南に広葉樹を植林しても、国土保全の役目としては、森林がダムの役目は果たしますが、消費者に良質の材を永続的に供給する事は不可能です。

現在は、父が奈良県産のナラ材を製材していた頃から数えると50年以上経っています。日本の山は、もはや建築材の一部の部材しか生み出せない山になっています。造作材等は外材に依存しなかったら、良い住環境は作るのはもはや無理だと思います。

昨今、鉄・銅が物凄く値上がりして、盗みの犯罪が多発していますが、木材資源もそうなる可能性は有ります。どうしても避けられないと思えます。そうなった時、長持ちする物作りをして頂いていたなら、高騰した木材を購入してもライフサイクルコストが安く付くので、経済的にも負担は軽くなると思えます。

## 私にとって三月は特別な月です。

今月の22日は、私の父親（会長）が亡くなって、四年になります。平成15年3月22日の午前11時30分頃、あの世に逝きました。その日は休日で朝八時頃母親から、電話が掛かり、何か急ぎの話しがあるとの事で『雅章お父さんが何か言いたい事があるそうです』父親の家に急いで行きました。その時の感じは、昨晚も顔を合わせたので、まさかこの日に亡くなるとは思いませんでした。しかし父親は何か解っていたのか、私だけでなく、弊社の常務まで呼んでいました。母親は父に『今日は休みだから、ゆっくりさせたら』と言っていました。どうしても呼んで欲しいとの事で、常務も車で、大急ぎで駆けつけていた記憶が、私の脳裏に鮮明に残っています。

私に、父親が喋った最後の言葉は『材木屋を辞めんで、頑張っってやっって欲しい』弱々しいが、明瞭な言葉で優しく言ったのを覚えています。その後私は少し仕事が残っていたので会社に行っていました。そして会社に妹から電話が掛かり、もうお父さんは、逝ってしまったと、涙声で電話に出たのは覚えています。

右記の写真は亡くなる一ヶ月前の2月の17日の物です。その日は仕事が大変忙しい日でした。父の顔は怖い顔していますが、腹は喜んでるのは私自身は解りましたし、社員も解ったと思います。



ところで私の父親の歴史を少し話させてください。父が高校生の時に、祖父が、製材機械で足に大怪我を負いました。もう仕事は今流で言うデスクワーク以外の仕事は出来なくなったのです。そういう事で祖母、父、姉3人といるのですが、食べていくのに父が、祖父の仕事をしなければ、一家は崩壊するので、何も考えられず後を継いだと、昔私に話していました。

その当時の父親は、年齢16位の歳です。幾ら材木屋の息子に生まれていても原木の事は、全く解らない事ばかりです。『どうしたら原木の事を覚えられるかを考えた』と言っていました。そして、それなら筏（いかだ）を扱う人に原木の事を教えてもらう事が出来ないかと考え、色んな手段を取ったと言っていました。その手段とは、その当時の筏師は、仕事は午後3時位迄しか、しませんその後はお酒を飲みに行くのです。そこで祖父から預かったお小遣いを渡したりして、仲良くなり飲みに行く前に時間を作ってもらい、色んな事を教えてもらったと言っていたのを私は覚えています。

そして、その筏師から、教えてもらったノウハウは原木の見方だけではなかったのです。ジーン台風だったか、台風が大阪に来襲し、筏が流れてしまいそうになった時に、他社の材木屋の親方は、手を拱いて仕方が無いなど、言っていたのと全く対照的に違い、私の父は筏の組み方迄、教わっていたので、服部の筏は殆んど被害に合わず、『雨降れば桶屋が儲かるではないが』その後大変儲かったと言っていました。それも今日の服部の礎になったと言っていました。

私は筏の組み方は、知りません。しかしそれ以外の事は、大体覚えさせてもらいました。過去に父親と凄惨な喧嘩はしましたが、今はよくぞ仕込んでくれたと感謝しています。（筏とは何十本の原木を一つの塊にする事）

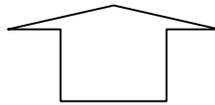
## パーフェクトコートの実証データー



服部商店の本社事務所ひさし部分にパーフェクトコートを塗布するのは、少し時間が掛かっているために、違う現場の写真を左記に掲載します。この現場は2000年に施工した現場ですが、見事にタイルの白化現象が抑えられているのが、解ります。

又、パーフェクトコートの特長を理解して頂く大変面白い実験もしました。それはあらゆる職業の方にもお役に立つと思います。

別紙アンケートにお答えして頂いた方に、面白い写真を送付しますのでお知らせ下さい。



**FAX番号072-422-8577**

アンケート

Q1、 パーフェクトコートに興味がある。

はい

いいえ

Q2、 Q1ではいとお答えした方に。  
パーフェクトコートの面白い写真が見たい。

はい

いいえ

御社名	
ご担当者名	
電話番号	
FAX番号	

株式会社 服部商店  
大阪府岸和田市木材町16-1  
TEL 072-438-0173  
FAX 072-422-8577  
担当 服部雅章